

2026 年度 三次元 CAD 情報標準化専門委員会 事業計画書

2026 年 5 月 15 日

委員会名称	三次元 CAD 情報標準化専門委員会 3DCAD Information Standardization Technical Committee (3D ISTE) (敬称略)		
委員会役員 および分科会 チーフ	委員長	セイコーエプソン	矢澤 和路
	副委員長	東芝	山下 暢一
	幹事長	Q V I ジャパン	中村 聡
	幹事	エリジオン	相馬 淳人
		Q V I ジャパン	中村 聡
		島津製作所	安住 俊郎
		セイコーエプソン	矢澤 和路
		東芝	山下 暢一
		ニコン	石井 義則
		浜松ホトニクス	長尾 光洋
		日立製作所	生方 清美
		富士電機	森田 耕平
		ブラザー工業	市川 弘
		ヤマハ	邨田 敏浩
	監事	ニコン	石井 義則
	分科会および 検討会チーフ	戦略プロジェクト DTPD 活用検討会	山下 暢一
		標準化分科会	中村 聡
	WG リーダ	幾何公差 WG	中村 聡
委員会構成 2026 年 4 月現在	正会員：11 社 ・エリジオン，Q V I ジャパン，島津製作所，セイコーエプソン，東芝，ニコン 浜松ホトニクス，日立製作所，富士電機，ブラザー工業，ヤマハ 賛助会員：9 社 ・アルゴグラフィックス，NDES，クリエイティブマシン， ダッソーシステムズ，電通総研，日本航空電子工業，BIPROGY，PTC ジャパン，ブラザー		
会議開催予定	・総会（1 回）5/15（次年度定期総会は 5/14（金）予定） ・幹事会（4 回）4/3，7/3，10/9，1/15（次年度第一回幹事会は 4/2（金）予定） ・戦略プロジェクト（12 回）（次年度は 4/23（金），5/28（金）予定） 4/24，5/29，6/26，7/24，8/28，9/18，10/23，11/27，12/25，1/22，2/26，3/26 ・標準化分科会（10 回）開催予定は 6 月より戦略プロジェクトと同じ ・幾何公差 WG（12 回）開催予定は戦略プロジェクトと同じ		
事業計画概要	1. 全体概要 JEITA 普通公差規格「ET-5102A」の改定や、ISO/JIS 規格開発の作業の増加を見越して三次元 CAD 情報標準化専門委員会の体制を変更し「標準化分科会」を立ち上げ直す。DTPD 活用検討会については、不定期開催に変更し、年 1～2 回ほど情報共有会を開催する計画とする。 2. 戦略プロジェクト (1) 分科会およびWGの活動に合わせて、1 回／月の開催を目安とする。 (2) 参加者は例年通り，委員長・副委員長・幹事長・分科会および検討会チーフ・プロジェクトリーダー・監事・渉外/戦略担当とし，必要に応じて会員メンバーを追加する。		

	(3) 各種活動間での意思決定の迅速化に努め、必要に応じて幹事会に企画案を提案する。 (4) 委員会活動の活性化に向けて、新規会員の勧誘につながる活動を模索する。 ● 活動方針の検討 産業界ならではの 3DA モデル／DTPD／3D 正運用／幾何公差の活用を促進する。具体的には、3DA モデルと DTPD の作成・連携のベンチマーク、国際標準や現状ツール／インフラに対し必要項目・仕様の検討、成功事例／課題（失敗事例）の収集、より多くの効果を発揮する技術テーマの発掘を行う方針とする。 ● 活動体制の検討 活動体制は、タスクフォース（各産業界に関わる幅広い人達に具体的に 3DA モデル／DTPD を教えると共に、専門委員会にない専門技術・分野・役割を取り入れたワークショップ）、他団体との連携（活動内容を明確化して会員の成果活用を促進するワークショップ）、スタートアップ（従来活動体参加以外の会員から広く活動テーマを募集する）の活動形態について 2026 年度についても継続での運用とする。 3. 標準化分科会 JEITA 普通公差規格「ET-5102A」の改定検討、ISO および ASME 規格の最新動向の把握、JIS 規格開発に携わる。6 月度の月例会より開始する予定。体制の変更に伴い幾何公差WG を従来の標準化分科会の下に戻す。 (1) 幾何公差WG 標準化分科会の下部組織として、「ET-5102A」の改定作業の実務に取り組む。また、5 月までは、前年度に引き続き「幾何公差の検証・測定例集＜実践編＞改定版の発行作業に取り組む。その後、一般公開の予定。 4. DTPD 活用検討会 三次元データの業務での活用を念頭に、具体的なアイテムについて必要なルール・技術検討を行い、技術レポートとしてまとめ、本来の目的である三次元 CAD データ・DTPD 活用の効果を検証して行く活動を、関連団体の協力を得て実施する。今年度は、不定期開催とし、年 1 ～ 2 回の情報共有会の開催を計画する。 (1) 下流側に引き渡す「情報」の標準化として「加工属性」「溶接指示」「組み立て」「保守サービス」など、まだ詳細の活用検討が実施できていないテーマが残っていると考えられる。 (2) 3DA モデル・DTPD 活用に向けた情報共有の仕掛け作り 昨年度と類似する対面でのイベントを通じて会員相互の情報交換の機会を作り、会員各社のニーズに応じて行くと共に、賛助会員に対して各社のソリューションについて情報提供いただく機会を設定した情報交換会を、活用検討会に取り込み進めて行く。これにより専門委員会の活動を活性化すると共に、DTPD 活用について会員間で情報共有を図る。
特記事項	なし